

## もやいで活動を通して学んだこと

社会福祉学部社会福祉学科 2年 中村 悠貴

活動先：NPO 法人 もやい

クラス：村上 徹也 先生

### 1. 自分の成長と気づき

私は今回の SL 活動で NPO 法人もやいの方々にお世話になった。4 月当初は NPO 法人がどんなことをしている団体なのか知識がなく、もやいのスタッフの方からも「遊びじゃないからしっかり活動してほしい」と釘を刺されたこともあり、自分が 1 年間活動していけるのか不安が大きかった。そんな私だったがもやいで活動を終えて、成長できたと思うことや学んだことがいくつかある。その中でも特に印象に残っていることが 3 つある。

1 つ目は後回しにしないこと。私は難しそうだなと思ったら大事なことでも後回しにしてしまうところがある。外部ボランティアの方と交渉する際、それまでに外部の方と交渉をしたことがなかったこともありどうしたらよいか戸惑った。しかし相手方にも都合があるため早急にコンタクトをとる必要があった。とにかく交渉をしなくては、と思い直して先延ばしせず行動に移した。これが結局功を奏して、夜空を見る会が団体スタッフの方・利用者の方にも喜んでもらえる催しとなった。このほかにも事前準備など「まだ時間があるから…」と思うのではなく、こつこつと準備していくことを意識して活動に臨んだ。活動をさせていただく手前至極当然のことだが、大切なことに気づき自分の欠点と向き合うことができたと思っている。

2 つ目はクッキーづくりでのこと。この活動は私の中で最も心に残っている。学生それぞれが 1 日小学生を対象にした夏休み講座を担当した。私が担当した講座がクッキーづくりである。事前に何度も教える練習をしてから当日に臨んだのだが自分の思ったように進まず、予定していた時間を 40 分オーバーしてしまった。原因は対象が小学生であることを考慮していなかった点や教えることに慣れていなかった点が挙げられる。楽しみながら一生懸命作業する子どもたちに声掛けをすることができなかった。企画を立てる際は対象となる小学生のできる範囲を見極めることが重要、そして計画は立てるものではなく「練るもの」だと学んだ。計画を立てることに満足するのではなく、そこから準備や練習をして完璧にできるというところまでやらないと成功しないと痛感した。だが子どもたちが私のことを「先生」と呼び慕ってくれたこと、「教えてくれてありがとう」と感謝してくれたことはとても嬉しかったし自信につながった。今まで私の中で培ったものがこういった場で発揮されて誰かに影響を与えることができることを知った。このことから分かったのがいつ、どんなことで自分の経験が役に立つかわからない。そしてやってみないことには何も得るものはないし知ることもない、だからいろんなことを経験することが大事ということだ。

3 つ目はスタッフさんや利用者さんとの関わりについて。活動初日、私は不安でいっぱい

であったこともあり緊張で体がガチガチだった。その日の活動はふれあい昼食会でたくさん利用者さんがいらっしやるので朝から準備で大忙しの状況。私は緊張から行動がもたついてしまい、スタッフさんから檄を飛ばされてしまった。利用者さんともうまく打ち解けることもなく、その日は気持ちが落ち込んだまま活動が終わった。このままじゃ何をしに活動をしに来ているのかわからないと考え、とにかく自分からどんどん仕事をこなしてスタッフさんや利用者さんに自分から関わって行こうと決めた。スタッフさんと積極的に関わっていくことでスタッフさんが仕事の面で頼ってもらったりさまざまな角度からのアドバイスをもらったりと短い活動期間の中で良好な関係を築くことができた。また、もやいについても深く知ることができたしNPO 団体に興味を持つきっかけとなった。受け身の姿勢ではなく、自ら進んで参加することで道が開けると身をもって感じた。

## 2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会活動

もやいでは「小さなお手伝い」を合言葉に幅広い年齢層の利用者さんのさまざまなニーズに対応した活動を行っている。例えば高齢者のためのミニデイを行っていたり、新米ママさんの育児相談に乗ったり、発達障害を抱えた子どもを短時間預かったりと利用者さんの「困った」に柔軟に対応していた。こういった小回りの利く助け合い活動は行政や企業にはなかなかできることでない。地域間で助け合いの機能が低下してきた今だからこそこういった団体の存在意義は高いと私は思う。その反面、もやいのスタッフさんとお話しをして知ったのは活動を始めてから15年になるが地域住民に対しての知名度が低いということ。何をしている団体なのか住民に理解されていないところがあるとおっしゃっていた。確かに活動中に会った利用者さんは固定化されていたように思うので地域住民に対しての知名度はそこまで高くないのかもしれない。これではせつかくの助け合い活動がもたない。多くの住民がもやいを活用することに地域活動の意味があるのではないか。もっと地域での活動を活発にさせ、いろんな人にもやいについて知ってもらいたいとおっしゃっていたことが印象に残っている。ではどうすれば活動を知ってもらえるのか？もやいではこの課題を解決するべくスタッフさんがいろいろな工夫やアイデアが詰まったふれあい講座を行っていた。こういった企画が話題になれば興味を持って参加してくれる住民が増え、もやいの活動が少しずつ理解されるようになる。だからこそこういった企画もインパクトのあるものにするために日々試行錯誤を繰り返しているのだと理解した。これからの活動としてもやいでは阿久比町と連携して出前講座を行うとのこと。町(行政)と連携するメリットは住民からも信頼ある団体と理解してもらえて団体をアピールすることができる。これは講義でも盛んに言われる「他機関との連携」で、互いのいいところを持ち合いよりよい活動を展開できるのでは、と思う。もやいのスタッフさん達もとても楽しみにしている。これらのことから地域活動をより良いものにするために私が重要だと思うのは、地域住民に活動を知ってもらうことや他機関との連携をより強固なものにすることだと考える。

最後になりますが、もやいの皆さんありがとうございました。